

# 不順天候に対する農作物の栽培管理について

平成28年9月27日  
農業技術課

## 1 作物

### (1) 水稲

- ・すでに成熟期を過ぎているほ場が多く、刈り遅れによる品質低下が懸念されるため出来るだけ早く収穫作業を行う。倒伏した場所では、穂発芽の有無を確認し、発生している場合は刈り分けを行う。
- ・コンバイン利用の場合、籾水分を確認して25%を下回っていれば、曇天であっても収穫作業を行う。
- ・バインダー刈り架干しの場合は、ハゼシート等を利用して降雨にあわせないようにする。なお、ハゼ全体を覆うシートの場合、晴天時には裾をめくって通風をよくし、ムレを防ぐ。

### (2) 大豆

- ・滞水しているほ場では排水対策を行う。
- ・長雨が続きと紫斑病の発生が多くなるので薬剤防除を行う。なお、薬剤散布は使用基準を厳守して行う。また、収穫が遅れると発病が多くなるので適期収穫を行う。

### (3) そば

- ・収穫作業に支障が出ないよう排水対策や周辺の草刈り等を行っておく。
- ・すでに成熟期を迎えているほ場は、出来るだけ早く収穫作業を行う。倒伏している場所は刈り分けを行う。

## 2 果樹

### (1) 共通

- ・受光態勢改善のため、支柱立て、枝つり、徒長枝切り等を行う。
- ・降雨により園内が滞水しないように、雨水の流入防止及び排水対策を行う。

### (2) りんご

#### ア 一般管理

- ・現状では成熟が平年並みからやや早めに推移している。これから収穫となる品種は、着色とともに果実成熟状況の双方に留意しながら、適期収穫に留意する。
- ・「ふじ」の有袋栽培では、除袋後、曇天続きの後に突然、高温・強日射に遭遇すると、日焼け果が発生するおそれがある。そのような場合は日焼け果軽減対策のため、寒冷紗などの遮光資材を利用する。
- ・適期に着色管理を行い、品質向上を図る。
- ・落果防止剤の散布は、成熟に応じて適期散布に心がける。

#### イ 防除

- ・今後も降雨が多いと、すす斑病、すす点病の発生が懸念されるので、降雨が続く場合は10月上旬まで防除を行う。
- ・春季に黒星病の発生が多かった園地では、翌年の伝染源となる秋期感染防止のため、降雨が続く場合には殺菌剤を散布する。

### (3) もも

#### ア 一般管理

- ・樹勢が強い樹では、下枝まで十分光が入るよう秋季せん定を行う。なお、秋季せん定の程度は、凍害防止のため新梢切除率で3割程度を上限とする。

#### イ 防除

- ・せん孔細菌病発生園では、越冬伝染源対策として10月上旬頃までボルドー液を散布する。

#### (4) なし

##### ア 一般管理

- ・これから収穫を迎える品種は、熟度の進行に十分留意し、収穫が遅れないようにする。

##### イ 防除

- ・西洋なしの無袋栽培品種で収穫まで期間がある場合は、輪紋病対策として殺菌剤を散布する。

#### (5) ぶどう

- ・果粒肥大は良好で、成熟も早めである。
- ・収穫は、品種ごとに十分に成熟した果実を収穫・出荷する。脱粒の心配がある品種は、収穫が遅れないようにする。
- ・荷造り時には、病害虫果や障害果（裂果など）の除去に注意する。
- ・醸造用ぶどうでは、収穫が遅れると果房腐敗の危険性が高まるので、適期収穫に努める。

### 3 野菜

#### (1) レタス類

- ・曇天・降雨により、軟腐病、斑点細菌病、腐敗病、菌核病、べと病等各種病害が発生している。日照不足、降雨が続くと、さらに拡大が心配されるので、未発生ほ場の予防防除を徹底する。また、排水対策を講じて栽培環境の改善を図る。
- ・細菌性病害は、生育ステージに応じて、銅剤、オキシロニック酸混合剤、抗生物質剤を防除基準を参考に散布する。
- ・菌類病対策は、生育ステージに応じて、防除基準を参考に散布する。
- ・チップバーンが発生している場合は、カルシウム剤の葉面散布を行う。

#### (2) はくさい

- ・黒斑細菌病、べと病、ピシウム腐敗病等の拡大が心配されるので、予防防除を行う。
- ・細菌性病害は、生育ステージに応じて、銅剤、オキシロニック酸混合剤及び抗生物質剤を防除基準を参考に散布する。
- ・菌類病対策は、生育ステージに応じて、防除基準を参考に散布する。

#### (3) キャベツ

- ・黒腐病、軟腐病、黒斑細菌病等の拡大が心配されるので、予防防除を行う。
- ・細菌性病害は、生育ステージに応じて、銅剤、オキシロニック酸混合剤、抗生物質剤を防除基準を参考に散布する。

#### (4) アスパラガス

- ・斑点病及び褐斑病の発生が拡大傾向にあるので、防除基準を参考に散布する。

#### (5) 果菜類（施設）

- ・ハウス内気温調節に使用している内張り資材は適性に使用し、光量確保に努める。
- ・きゅうりではうどんこ病の発生が拡大している。べと病、褐斑病、炭疽病等の拡大が心配されるので、防除基準を参考に防除を行う。
- ・きゅうり及びイチゴでは曇天後の強日射により葉やけ等が発生するので注意する。

#### (6) その他

- ・害虫では、気温の高い時期は過ぎたものの、まだ、コナガの発生時期であり、低温傾向ではあっても、その後の天候によって、被害の発生・拡大が心配されるので、発生状況に応じて薬剤散布する。薬剤散布に当たっては、ジアミド系薬剤の抵抗性の発達を助長しないよう、長野県病害虫・雑草防除基準に記載されている I R A C コードを参考にローテーション散布を行う。

## 4 花き

### (1) トルコギキョウ

#### ア 一般管理

- ・八重系品種では、日照不足の影響によりブラスチング（蕾の生育停止）の発生が多くなる。このため、施設上部を点検し採光を高めるよう配慮する。また、日照不足により生育が軟弱になっていて天候の回復による強日照で葉焼けしやすいので、遮光資材等を活用し発生防止を図る。
- ・品質低下を防止するため、可能な範囲で不要な二次花蕾の整理を徹底する。

#### イ 防除

- ・曇雨天の影響で、通風が悪いほ場では花シミ（灰色かび病）による品質低下や切り花ロスが発生するので、循環扇等により湿度の均一化を図る。循環扇等がないハウスでは、天窓や側窓等をできる限り開放して換気の徹底を図る。
- ・灰色かび病対策は、防除基準を参考に薬剤散布を実施する。なお、切り花直前では、汚れの発生に注意する。

### (2) カーネーション

#### ア 一般管理

- ・特にスプレー系品種は、日照不足の影響から輪数不足や軟弱化となりやすいので、曇雨天時は遮光用の被覆資材を開放して施設内の光量を確保する。併せて、不要な芽や側枝を整理して株元の通風を高めるとともに、株元まで光が届くよう配慮する。

#### イ 防除

- ・黒点病が発生していたほ場では、今後の低温・多湿条件により再発が心配されるので、防除基準を参考に防除を実施する。

### (3) きく

#### ア 一般管理

- ・露地ぎくでは、排水不良による下葉の黄化や根腐れなどの発生が見られるので、ほ場の周囲・内部に明渠を設置し、排水管理を徹底する。
- ・また、曇天の影響で花芽分化が促進されることが予想されるので、早めの整理と花首伸長抑制剤の散布を実施し品質の確保に努める。

#### イ 防除

- ・低温・多湿条件下では、白さび病、斑点細菌病などの発生が多くなるため、防除基準を参考にローテーションによる防除を実施する。なお、汚れの発生は品質低下となるので注意する。

### (4) アルストロメリア

#### ア 一般管理

- ・日照不足で生育が軟弱になっており、天候の回復による強日照で葉焼けしやすいので、遮光資材等を活用し発生防止を図る
- ・株元まで光が届くように適切な間引き等の徹底を図る。

#### イ 防除

- ・黄化・枯死し始めた古い葉に灰色かび病が発生し、花卉に小斑点が発生する原因となるので早目の間引きと、必要に応じ薬剤散布を行う。

### (5) その他

#### ア 一般管理

- ・排水不良の圃場では、長雨による滞水で根傷みや下葉の黄化等が発生しているほ場もみられるため、明渠排水等の排水対策を図る。

#### イ 防除

- ・長雨、日照不足等により特に病害の好適発生条件となっている。このため、防除基準を参考にローテーション防除による病害虫防除を実施する。

## 5 飼料作物

- ・収穫適期を過ぎた飼料用トウモロコシは茎葉の枯れ上がりや子実の登熟が進むことにより、サイレージの水分が低くなりカビや二次発酵が発生しやすくなるため、より細かな切断や十分な踏圧によりサイロ内の密度を高くするとともに必要に応じてサイレージ添加剤等を利用する。
- ・収穫適期を過ぎた牧草・稲ホールクロップサイレージは、乾乳末期や泌乳初期の給与量を控えるなど、給与方法に注意する。また、刈倒し後、長期間収集できず変敗したものは、給与を控える。
- ・表作の作業遅れにより裏作（イタリアンライグラス等）の播種適期に播種できない場合は、遅くまで播種できるライ麦などに切り替える。